

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	神奈川県	市町村名	相模原市	大学名	
派遣日	令和3年7月30日(金) 9:00~12:00 9:00~9:30 会場校国際教室見学・担当教員による実践報告 9:45~10:25 講義(前半・40分) 10:30~11:00 演習(グループ別・30分) 11:05~11:45 講義(後半・40分) 11:45~12:00 質疑応答・閉会				
実施方法	派遣				
派遣場所	相模原市立清新小学校				
アドバイザー氏名	東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授 菅長 理恵 氏				
相談者	相模原市教育委員会 【研修参加者】 60名 ・国際教室担当教員 ・日本語指導が必要な児童生徒が在籍する小・中学校教員 ・会場校教員				
相談内容	本市において日本語指導が必要な児童生徒は年々増加傾向にあり、国際教室担当教員など日本語指導に携わる教員等のアセスメントに基づく日本語指導に関する理解や指導力の向上が必要であることから、DLA(対話型アセスメント)を中心とした内容の研修を依頼。 【主な研修内容】 ①外国人児童生徒等のためのJSL対話型アセスメントDLAについて(講義) ②DLAの具体的な実施方法について(演習) ③DLAの結果を生かした日本語指導、教科指導について(講義)				
派遣者からの指導助言内容	①外国人児童生徒等のためのJSL対話型アセスメントDLAについて(講義) ・DLAには、はじめの一步、話す、読む、書く、聞くがあり、テキストに沿って対話をしながら学習言語能力の測定を行うことができる支援付き評価法である。 ・CLD児(文化的・言語的に多様な背景を持つ児童)を肯定的にとらえ、年少者の言語習得の特徴を踏まえて実施する。 ・測定結果はJSL評価参照枠に当てはめ、ステージを確定することで、どの段階であるのか、どのような支援をするとよいか分かり、支援・指導計画の立案等に役立てることができる。 ②DLAの具体的な実施方法について(演習) ・グループごとにテスター役とCLD児役にわかれ、語彙カードやテキストを用いて、先生の説明を聞きながら基礎タスク、対話タスク、認知タスクの実践演習。 ・DLAは児童生徒の日本語能力を測定するものであると同時に、指導者にとっては支援・指導計画を考えるものであり、また、児童生徒にとっては対話によるアセスメントそのものが学習活動である。				

	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒がDLAに楽しく取り組み、達成感をもてるように、テンポよく、肯定的な声掛けや励ましをしながら進め、自己肯定感を高めることが大切である。 <p>③DLAの結果を生かした日本語指導、教科指導について（講義）</p> <ul style="list-style-type: none">・学校全体でDLAの結果を共有し、児童生徒の日本語や教科学習の習得状況、必要な支援などがわかるようにしておくことが必要。まずは、学級担任と日本語指導関係の教員等の連携を密にすることが重要。・目標に到達しているCLD児が未到達のCLD児に教えあう場を設けるなど、日本語や学習内容を話したり、使わせたりする活動を意図的に展開する。・家庭学習の習慣づけも大切であり、子どもと保護者双方に楽しく意味のある宿題を出すことを心がける必要がある。例えば、音読の宿題では、日本語での音読後に母語でその内容を保護者に伝えさせることにより、保護者も子どもが何を学んでいるかを理解することができる。子どもが母語を使い、その力を維持したり伸ばしたりすることは、考える力や日本語能力を向上させる上でも重要である。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>○今回の研修内容であるDLAの考え方や具体的な実施方法を、研修等で市内に普及拡大する機会を設けて、各校でアセスメントに基づく日本語指導や教科学習を実施できるように支援していく。</p> <p>○研修者からは、DLAの考え方や具体的な実施方法を学べたことで、2学期からの指導・支援に生かしていきたいという意見やDLAの結果を在籍学級での教科学習に生かしていくための具体的な指導・支援方法を知りたいという感想が多くみられた。</p> <p>○講師の菅長先生には、DLAについて講義や演習を通して大変わかりやすく教えて頂き、本市は多くの学びを得ることができた。今後も外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣制度を引き続き利用させて頂きたい。</p> <p>■以下は研修後に実施した研修者アンケートからの抜粋である。</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語の状況だけでなく、様々な背景や将来像も捉え、実態・ニーズをふまえて計画的に指導することが大切だとわかりました。・学級担任と国際教室担当教員や日本語指導講師が日頃から情報を共有し、同じ目標をもって指導に当たっていけるとよいと感じました。・日本語教育の課題を認知面から説明していただき子どもたちの実態と重ねて考えることができました。・DLAはCLD児の現状を理解するための評価だと思っていましたが、子どもの達成感や自己肯定感を高めるための支援であることがわかりました。